

| | |
|------------------|---|
| Title | 臺灣高砂族系統所屬の研究(臺北帝國大學土俗・人種學研究室編, 刀江書院發行) |
| Sub Title | |
| Author | 松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro) |
| Publisher | 三田史学会 |
| Publication year | 1935 |
| Jtitle | 史学 Vol.14, No.2 (1935. 8) ,p.175(357)- 177(359) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 書評 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19350800-0175 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

充すに足つてゐる。殊に、「敗殘の獨艦ドレスデンの行方」の如きは、探偵小説の如き興味を唆つて一氣に讀了せねば已まないであらう。

第三には、國際法的見地からして價值ある勞作たることである。その二三を摘録すれば、「商船を軍艦に變裝する問題」、「潜水艦の交戦方法」、「外交使節の地位」等に關して、學說の岐れてゐる點に關して、實證的研究に役立つべき材料が提供せられてゐる。

以上の三點を綜合するならば、大體に於て本書の記述と内容の如何なるものであるかは了解せられることと思ふ。國際法研究者が本書より受ける印象と、その他の人々の受ける印象とは元より同一ではあり得ない。然し、興味と法律的研究との兩者を共に備へてゐることは既述の通りであつて、一般讀者は小説以上の眞實味と満足を得、法律研究者は更にこれに加ふるに、法律學上の教示を受けることであらう。元來、日本にはこの種の著述が餘りに少な過ぎる。純法律的な所謂「國際法先例集」とでも稱すべき著述が外國には何れも相當ある。それ等と本書とは著者の記述的な態度に於て、即ち前者は純國際法的立場のものであり、本書は、これに讀者の興味を尊重する點を多分に含んでゐる點に於て相違はあるが、その價値に於て、前者が専ら國際法研究者の研究上の利益に役立つに反し、本書の如きは、一般大衆をして、國際問題に關する一般的な概念を與へ、啓發する點に於て、社會を指導し裨益すること極めて大であると言はねばならない(定價二圓)。

(前原光雄)

書評

臺灣高砂族系統所屬の研究

(臺北帝國大學土俗・人種學研究室編)
刀江書院發行

臺北帝大の移川子之藏教授以下宮本延人、馬淵東一の諸君が、峻險極まりなき臺灣の蕃界に瘴癘の氣を犯し、剽悍な蕃人の間に伍して四年間の精勵倦む所なき調査によつて完成した高砂族系譜の研究は、菊倍判本篇五六二頁、資料篇一三一頁の大著となつて公刊された。吾々は此の長年月の間調査者達が如何なる苦心、如何なる犠牲を拂つて本書の編纂に努力されたかを知つてをるため本篇の發刊を迎へて衷心より悦びの念を禁じ得ない。移川氏は序文中に宮本馬淵氏等が病氣になやみながら惡戰苦闘せられたことを記し、かつ御自身が出發を一日延期せられたため幸ひ霧社事件の慘害を免かれたことを記されてをるが、吾々は、氏が此の四年の年月中に最愛の御令閨を失はれたる事實を憶ひ起し、本書公刊に當りて教授の御胸臆に感慨無量なるものがあることを推察し、感激に堪えぬ。氏等の苦心は完全に酬はれて、今回完成された本書は實に伊能氏・鳥居氏・佐山氏等の研究により遅々たる歩みを續けてゐた臺灣原住民の土俗學的調査に長大な飛躍を齎し本邦のエスノロジイの歴史上に新紀元を生んだ大出版と云ふべきものである。由來本邦の大學又は研究所に於て最近圖版の多い尨大な刊行物が考古學的方面に陸續として出版せられるが之に反し本邦の土俗人種學方面はまことに淋しく對岸のアメリカにスミソニア・インスチチュートの尨大な大出版を見るにつけ慚愧たるものが

(三七)

一七五

あつたが、今度發刊された移川教授の書物は其の點に於て優るとも劣る所なき大著述であり、同大學は今後此種の刊行物を續々世上に送られるであらうから、頗る吾人の意を強うするに足りる。願はくば内地の諸大學研究所も、土俗人類學方面の開拓に今一層の努力を拂ひ之に似た大業績を舉げて貰ひたいものである。我國は考古學のみならず土俗人類學上にも極めて興味ある資料に取圍まれてゐることは忘れてはならない事實である。

一體諸人類の研究に最も危険なのは、先入主の學說臆見をもつて物事を判斷することであるが、此の點移川教授は流石にアメリカの實證主義を傳へ綿密に確實な材料の蒐集批判に全力を注いでゐられるので吾々は安心して本書を繙くことが出来る。要するに從來、高砂族に就てなされてゐた大小の研究は先づ、本書によつて再批判再検討を受くべきであり、將來の研究は本書を其の出発點となすべきであらう。本書は目星しい點をつまみぐひして大づかみに人種を調査してゆく之までの行方とは正反對に先づ諸部落の面倒な戸籍調べをやつて、一切の研究の土臺となるべき基礎的作業を行つたものであり、其の煩勞さ、まだるこしきは察するにあまりあるが、さういふ努力を犠牲として今日までの人種土俗學に缺けた一面、縁の下の力持に似た仕事を完成して呉れたことは吾人の感謝に堪えぬ點である。評者は残念ながら本書をくまなく熟讀し著者の苦心を知る餘裕とかつ能力とを有してゐないが、閲讀し得た部分に於ても著者の種々なる新説が從來の學說を訂正してゐる所多きを知つて甚だ愉快を感じた。その中の一つをとつても一論文として發表すべき價値あるものが多い。從來發表に極め

て吝であつた移川教授が愈々其の業績を世におくるや蘊蓄人を驚かすものがあるのは平素の心掛けがしのばれて床しい。本書は昭和五年臺灣總督上山滿之進氏が任を去るに當り官民の餽別のため釀金した一萬圓を高砂族の研究の爲臺北大學に寄附せられたるを、同大學總長幣原坦氏が之を小川尙義氏移川子之藏氏に托して前者に言語方面を後者に土俗の方面の調査を依頼したるに始まり、移川教授は本塾史學科出身で同教室の助手をつとめる宮本延人氏、臺北大學の出身で同教室囑託なる馬淵東一氏と共同して蕃界に入り、四年の星霜を経、苦心の結果完成された勞作であり、生蕃の間に存する系譜傳承を集め、之によつて、比較的近代に於ける各部落移動の跡を辿つたもので、アタヤル族に始まり、サイシャット、ルカイ、パイワン、バナバナヤン、バングツアハ、ヤミ族の順序で精密に調査の結果を記録してゐる。之によつて生蕃各部落の最近世に於ける歴史が出来上つたと云つてよい。まことに編者は生蕃各部落の爲古事記撰録の勞苦をとつたものと云ふべきである。然し本書は生蕃の口傳を通じて其の歴史の再建事業を行つたに止まり、未だ各部落相互の關係や周圍民族との異同の問題にはあまり觸れられてゐない。思ふに著者はこの豫備的作業を終へてから愈々眞正の土俗的言語的比較研究により此等部族の系統や臺灣島以外の地方との關係に就て第二第三の調査を發表せられることであらう。吾人は刮目して臺北大學今後の業績を待たう。たゞ將來の出版に今少し留意せられたい點は附圖の問題である。資料篇に附せられた地圖は残念ながら地形圖に部落名をいれたに止まり、見づらくて参照に甚だ困難である。また本

篇に挿入された移動圖も部落名の記入が尠いので記事を讀む時参照し難い。今後の出版には部落を主とした鮮明な地圖をいれて戴きたい。また本書は殆ど辭彙の如き大編纂物であるのに索引が無いのは遺憾である。これは英文概要と共に本書の如き大出版の是非備ふべき諸點であらう。要するに世界の學界の待望と注目裡に歩武堂々臺灣原住民の研究に乗り出された臺北大學土俗・人種學研究室の最初の勞作に心からの慶賀の辭をおくり、今後の大發展を祈つて拙ない紹介の筆を置く（松本信廣）。

岩崎文庫和漢書目録（東洋文庫發行）

本目録は舊モリソン文庫に寄託せられた男爵岩崎久彌氏の舊藏本を収めたもので、同文庫が東洋文庫と改稱せられて後、昭和七年十一月同男より同文庫に寄贈せられた記念として編纂されたもので、同文庫の和漢書と區別する爲舊名岩崎文庫の文字を冠したものである。

本目録は主として文學博士故和田萬吉・樋口慶千代兩氏の編纂に係るもので、次の如く分類せられてゐる。

古寫本（奈良朝・平安朝・鎌倉期及吉野朝・室町期及織豊期）

古刊本（奈良朝・鎌倉期・吉野朝至織豊期）

古活字版

江戸期及其後の刊本寫本（神道・宗教・經書及諸子・教訓・

國語・漢語・國文一般及雜載・國文學史・上代文・中古文・

室町期小説・假名草子・浮世草紙類・謠曲・狂言・幸若舞

曲・淨瑠璃及歌舞伎狂言・和歌文合集・各時代に互る歌集
歌話・古歌謠・俳諧・狂文狂歌狂句・草双子・洒落本・讀
本・笑話・滑稽本・芝居繪本・國文消息・漢詩文集・詩話・
支那小説・藝術及遊技・歴史・地誌・政治法制經濟・曆天
文・醫書及本草・産業工業等・料理法・兵書・總載）

朝鮮本

支那刊本（宋元版・明清版・拓本）

廣橋本（國史・音韻國語詩文・雜・漢籍）

而して以上の綱目を必要に應じ更に細分し、又比較的稀觀のもの
を先にし、然らざるものとを區別してゐる。蒐書中には稀觀に屬
する古鈔本及び古刊本が尠からず、就中和田維四郎、廣橋伯爵、
新井白石、小野蘭山、木村正辭、有賀長雄等諸家の舊藏本或ひは
手鈔本がそれで、漢書よりは和書の方が數に於て遙に多く、従つ
て貴重なものも後者に多い。殊に最後に纏めて一綱を立てられた
廣橋本には國史研究者の注意を惹くものが頗る多いかに見受けら
れる。尙卷末には勿論書名索引が附せられてゐる。本目録の出版
が學界の爲慶賀すべきことであるのは云ふまでもないが、筆者は
本目録に續いて東洋文庫全書目録の一日も早く完備されんことを
祈つて、この紹介の筆を擱く。（四六倍版四八五頁、索引八二頁）
（杉本忠）

維新史籍解題 傳記篇（高梨光司著）

本書は維新史研究者に對して、研究の資料を提供することを目